CONTENTS

COMBAT

2016.Aug.
No.485

8

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
Hisaaki Mihara / Tomoyuki Orimoto
©WORLD PHOTO PRESS 2016
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

【第1特集／リエナクト】

006 特集　でもやるんだよ！
リエナクトのススメ
The Deep World of REENACTMENT

008 日本のリエナクトを牽引する男　本島 治
012 海外事情　その1
バルジ・リエナクトメント参戦記
018 “お作法”とともに装備の具体例を見ていく
リエナクト装備集　ダイジェスト版
036 HEART ROCKを語る　川勝多一朗
040 NEW GENERATION STYLER 特別篇
ポスト・リエナクトメント
046 海外事情　その2
US MilSim(ミルシム)事情
050 コスプレ娘 meets 魔肖
～彼女が軍服に着替えたら～
053 サバゲ三等兵presents
あなたのリエナクター度判定！
054 この映画は見ておけ！　WWⅡ&NAM戦編
056 ヘンリー少年セレクト
武器選びのお作法
058 装備を買うならここだ!!
リエナクト装備ショップ・ガイド
066 実際に参加してみよう！
リエナクト・イベント型録

【第2特集／ミリタリー】

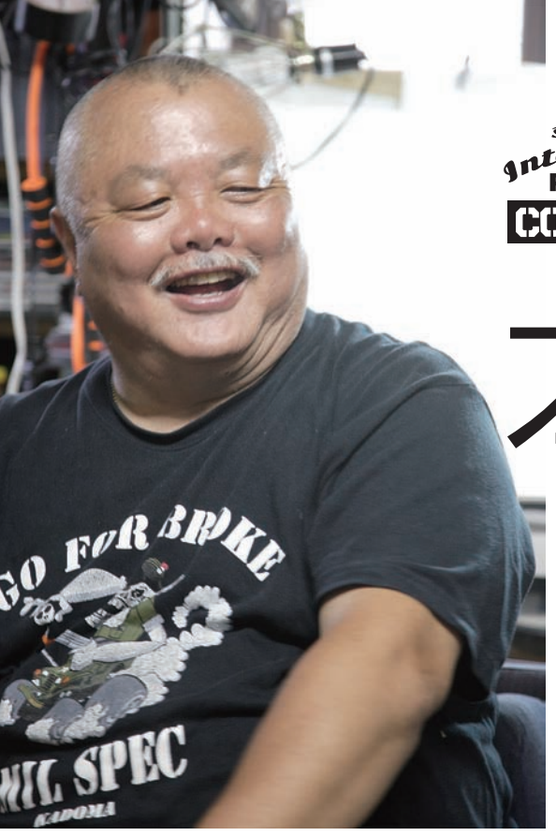
070 GEARLOG
東北vs広島【東北編】
092 The Equipments of the U.S. Force
[現用米軍装備カタログ]
第142回'90年代陸軍
特殊部隊装備AWS Part.2
●解説：松原隆 ●撮影：山崎 学
102 自衛隊の力こぶ
●菊池雅之
106 NEW GENERATION STYLER
●fujiwara
117 Militaria Roundup!
ヴェトナム戦争関連ミリタリア
●解説：菊月俊之

004 COMBAT FRONT LINE
078 WESTERN ARMS
COLT GOVERNMENT MkⅣ
SERIES'70BLUESTEEL CUSTOM
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY
083 WESTERN ARMS
WA MOVIEGUN SERIESE
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY
088 東京マルイ　GLOCK22
●Photos&Text by Taku
116 ミリいじ技研
128 PRESENT
146 トイガンニュース
146 マルゼン　ワルサーP99 FS & カービンコンバージョンセット
147 WA　SFA V10ウルトラ・コンパクト・ブラックVer.
147 WA　コルトM1911A1《パールハーバーVer.》
148 タナカ　コルト・パイソン.357マグナム“Rモデル”HW
149 タナカ　S&W M500 ES《ステンレス・モデルVer.2》
150 Goods & Accessory
154 PROJECT NINJA
●morizo(東京装備BAKA)
158 WANCHER'S STYLE
●織本知之
162 兵装嗜癖
●fujiwara
164 WILEY　X
●石井健夫
170 サバゲ三等兵
●織本知之
210 編集部お薦めのタクティカルギア大図鑑
Tasmanian Tiger TacPack 22
216 中田商店グッズ
218 S&Grafグッズ
129 GAME OVER THE TOP
132 USシューティングライフ!
136 編集長日誌
137 大人遊び　ラムとナイフとスモークと
138 読んで覚える　TakuのHOW to Shooting
射撃のススメ
140 トイガンズ・ジャンクション
188 ショットショー・ジャパン
193 バックナンバーリスト
194 ミリタリー・コレクション
196 レア・ミリタリー・コレクション
198 A STITCH IN TIME
199 ヘンリー少年のミリ雑講義
200 狩野健一郎のシネマ放浪記
201 狩野健一郎の新作DVD紹介
202 蛙のゆびさき
204 戦車兵通信　WORLD OF TANKS
206 コンバットマガジン・インフォメーション・センター
207 読者プレゼント応募方法
208 編集後記

The Deep World of REENACTMENT
リエナクトのすすめ

歴史上の戦争などの軍事行動を当時の武器や装備を使って再現するゲーム、それがリエナクトメント。欧米からの刺激も受けながら、日本では独自のイベントとして、ミリタリーDUDEたちに浸透、いまや多くのエンスージアストたちに受け入れられてきている。サバイバルゲームとも、コスプレとも違う、リエナクトの世界。そこに入るには、ほんのちょっとのお作法と、装備やミリタリーの諸々に対する好奇心があればOK。いったん捉えられたら、その深みにどんどんはまっていくこと必至。ようこそ！ リエナクトの世界へ！

●Photos：K. NUMATA、小林 拓



Special Interview Part1 COMBAT

日本のリエナクトを牽引する男

本島 治

OSAMU MOTOJIMA

ヴェトナム戦を中心とした「アポカリプス」と現用装備の「ハートロック」をはじめ、日本のリエナクトメント・イベントを数多くスタートさせてきた男。それが本島 治さんだ。今回も第2次世界大戦末期の軍用車両の展示走行を中心としたイベント「MVG」を開催、成功裏に終わらせた氏と、その「舎弟頭」DUKE廣井氏に、リエナクトメントとともに歩んだ「ここまで」を語ったもらった。これは日本のリエナクトメントの歴史だ！

●Photos：小林 拓　Text：狩野健一郎　Interview：編集部

1.1970年代上田信さんのコレクションを使って軍装パーティを行っていた。**2.3.**'71年末に初渡米。ミリタリーショップで感動する。**4.**アリゾナ州のメキシコ国境で発見した第一次大戦から第二次大戦中の軍用車両の墓場。**5.**渡米するたびに市内にあったGun & Military　ショップに通っていた。

はじまりは「コンバットクラブ」

――日本のリエナクトメントを楽しむ人たちの集まりとして、1960年代から中田商店が作った「コンバットクラブ」があったと伺っています。本島さんがそこに入ったのは何歳頃だったのですか？

本島　'60年代後半、中学3年か高校1年の時でしょうか。中田商店にはウエスタンクラブといろいろなクラブがあったんですが、その中の「コンバットクラブ」に飛び込んだんです。でもナチの軍服とか全然無い。欲しかったから自作するしかなかった。装備品も作りました。

――クラブでは具体的にはどんなことをやってたんですか？

本島　一言で言えば「戦争ごっこ」。モデルガンで、ドンパチいって。まあ、リエナクトの基本ですね。

――当時のメンバーは、ミリタリー業界にかなり残っているそうですね。本誌でもご活躍いただいている上田信さんをはじめとする方々との交流もその頃に深めたとか。

本島　もともとミリタリーは大好きだったんですが、高校生の時に模型好きの方に会って「戦車が好きなんです」って言ったら、「じゃあ三土会っていう集まりに今度顔を出しなよ」って呼んでくれたの。そこに高荷義之さん（イラストレーター）とか中西立太さん（イラストレーター・故人）とか第一次日本のミリタリー界の親分たちがいた。

信ちゃん（上田信さん）ともそこで会ったんです。信ちゃんはその頃20歳くらいで、俺が17くらい。ぴったり気が合って。ずーっと信ちゃんのところに入り浸り。「信ちゃんの弟子になってやる」つって（笑）。信ちゃんがその頃いたMGCに遊びに行くと、弘隆さん（小林弘隆・通称“イラコバ”、イラストレーター、故人）、本コバさん（小林太三、現タニオ・コバ社長）、ヒサクニヒコさん（イラストレーター）さんがいて、そこで横のつながりが出来て遊びました。信ちゃんと模型を軸にダーッとつながった。彼のおかげなんですよ、ぼくがこんな風になったのは（笑）。

――大学に入った'70年頃には単身で渡米もなさったとか。

本島　資料も今みたいにないから、自分で行って会って見てが不可欠でした。お金貯めて姉のアメリカの留学先に押しかけて。で、ガンショーを見て、ガンショップでミリタリーものがゴロゴロしてるの見て。どれをとってもすごい、と感動しました。日本にはそういったものが全く無い時代でしたから。結局2ヶ月いたのかな。で、帰って来て、そのまま大学はエスケープ（笑）。

――その頃のアメリカではリエナクトのイベントはあったんですか？

本島　大きいものは少なかったと思います。'68年くらいから、第2次世界大戦のリエナクトメントとかはやっていたようですが、中田商店のコンバットクラブみたいなちっちゃなやつで、数人で集まって戦争ごっこやっていたくらいみたいです。ガンショー人気に喰われたのもありますが、やはりヴェトナム戦争の影響でミリタリーものの人気も下がっていました。でも、'78年くらいから、大きめのリエナクトメントが始まってきたんです。そして'80年代になるとさらに盛り上がっていくんです。

フロリダ州にあるパットン・ミュージアムのイベントが大きな契機になったように思います。戦車の走行会として始まって、兵隊が付いて来るようになって、リエナクトメントの基礎が固まったんです。あと、バージニアビーチでのノルマンディー上陸作戦のもの。あれが当時最大のイベントで、現代に続くリエナクトメントのスタートラインでしょうね。

アポカリ&ハートロックを始めるまで

――ご自身はリエナクトを定期的に続けてらしたんですか？

本島　はい。コンバットクラブから分かれて、新たなリエナクトチームが出来てからも楽しんでいました。

――廣井さんがリエナクトメントに合流するようになったのは？

廣井　私が一緒にやり始めたのって、ジープ村のモデルガンでやった第1回ミリタリー・ヒストリカル・キャンプくらいからじゃないですか？

本島　'80年代になってからですね。私は大学をやめたあと、勤め人だった時期もあったんですが、やっぱりミリタリーが好きで、中田商店さんでアルバイトするなどして、装備品のお店（サムズミリタリ屋）を開いたんです。その時期と前後して、年に1回のジープジャンボリーに参加していたんです。で、その中の「イロモノ」として、リエナクトメントをやったんですね。爆弾しかけて「ドッカン！ ドッカン！」と（笑）。軍用車輛と爆破を使ったら映画のシーンを再現したようになった。ああ、こうやってやる遊びは良いな、と感じました。'90年代にはMVラリー（ミリタリービークルラリー）というイベ

BATTLE OF THE BULGE

海外 Report Part.1

バルジリエナクメント参戦記2016

in Pennsylvania

●Text & Photos：SAM MOTOJIMA

第2次世界大戦のヒストリーの中で最も有名なのがパールハーバー（真珠湾攻撃）、スターリングラード攻防戦、ノルマンディー上陸作戦、そしてバルジ反攻作戦の4つではないでしょうか。特に昭和生まれのミリタリーマニア達にとってミリタリー模型の大ブームと映画『バルジ大作戦』（1966年公開）の公開の影響もあり、特にこれらには強い思い入れがあると思われます。

バルジ戦は第2次世界大戦末期のクリスマス時期にヒトラーが行なった最後の大反攻作戦として有名で、ミリタリー・ヒストリー的にも人気のあるシナリオ。ですので、冬になると世界中のリエナクター達の間でバルジ戦いを模したゲームが開催されているのです。そんな中で、最大規模の物が約30年前から米国のペンシルバニア州で開催され続けている事を知る人は少ないかもしれません。

えっ！ バルジ戦に行けるの？

20年ほど前より米国のフォートギャップでバルジ戦のイベントを行なっているらしい事は知ってはいました。ですが情報不足と遠距離という事もあり、中々参加できない夢のイベントでありました。しかし今年、米国最大の悪友であるSM Wholesaleのスティーブから「バルジへ一緒に行かないか」との誘いを受け、参加する事となり、遠路遙々20時間近いフライトを経て念願の雪に包まれたバルジ戦リエナクメント会場に到達する事になったのです。

会場はペンシルバニア州都である田舎町ハリスバーグの空港から車で約30分走った雪深い丘陵地帯にあるフォートGAPと呼ばれる州兵基地。そこは、大雪、吹雪も何のそのとばかりに全米から集まった500名以上のリエナクター達が4日間にわたってバルジ戦リエナクメントや本格的なリビングヒストリーを心ゆくまで楽しむための会場でありました。参加者達も青少年から（18歳以上）この道数十年という初老の叔父さん達も大挙入り混じって、嬉しそうに第2次世界大戦の軍服に身を包みドッカンバッカンと戦争ごっこ三昧なのであります。

この4日間に渡り私が見聞したイベントの模様を、日本のファンやリエナクターの方々に少しでも味わってもらおうと思いレポート致しました。

リエナクト装備集Digest【ダイジェスト版】

REENACT EQUIPMENT DIGEST

ここで言うリエナクトとはリエナクト・ゲームやヒストリカル・ゲームと呼ばれる歴史再現イベントで、エアソフトガンを用いる戦闘再現と生活再現を行うリビングヒストリーを指すものだ。現在我が国では第2次世界大戦、ヴェトナム戦争、現代戦及び、その他マイナー路線を含む多種多様なイベントが存在する。本島氏が語ったように元来、子供の戦争ゴッコが大人の遊びとなりリエナクトへと昇華したものであるとご理解願いたい。ミリオタなら軍装をタンスの肥やしにしないで、是非ともリエナクトに参加してみよう！ そのお作法と云うか、リエナクトに参加をするための準備のお手伝いになれば幸いと、参加の心得と軍装の具体例を紹介します。

●構成：DUKE廣井　K.Numata　松原 隆

リエナクト・ゲーム ヒストリカル・ゲーム 参加の心得

その壱 部隊行動を以って終始せよ

サバゲではないって事を肝に銘じなさい。直属の部隊長から命令されない限り、敵が目の前にいても撃ってはダメです。報告連絡相談をシッカリ！

その弐 役作りに終始せよ

単独行動はダメだけど、自分なりの役になりきって楽しもう。多くのイベントでは参加者を出演者として扱います。皆で創るイベントなので、お客さんではないのです。だから上官に（まっとうに）怒鳴られるのもリエナクトだよ！

その参 忠勇なる軍人、兵隊として終始せよ

ルールは絶対守ろう。レギュレーションで携行弾数が制限されているイベントが多いはず。実際に兵一人が持てる弾数の上限は180発から250発。ブットパックにBB弾2000発隠し持つなんて非常識！　実弾をそんなに持てないでしょ？！　　インチキする人がいると急に楽しくなくなるよ！

その四 自らの歴史再現に留意せよ

重ねて言いますがサバゲではありません。あくまで再現イベントです。勝ち負けに拘ったり、何人喰ったとか言う人がたまにおりますが、そういう人には向かない遊びです。勝ち負けに拘らずに戦争ゴッコ、軍隊ゴッコ、映画ゴッコを楽しみましょう。ちなみにヒット・コールは絶対禁止。派手にやられましょう。

その伍 銃器類の歴史再現にも留意せよ

一度に440発撃てる小銃や短機関銃なんか無いでしょ！　全てリアルカウント・マガジンにする必要はないけど、マグ・チェンジの芝居くらいやりましょう！

以上、少々厳しいかもしれないが、これがリエナクトメントの基本。コイツを踏まえておけば世界中のリエナクトに参加できるはず！！　もちろん臨機応変に楽しむこともできるはず。リエナクト・イベントは敷居が高いと思っているそこの君、既に参加している先輩方を観てご覧……なっ！ ぜーんぜん敷居なんか高くないでしょ！

ゲーム方式による系統を理解しよう

［ リエナクトメント系 ］

- ●第1次世界大戦から現用までの戦闘再演を目的としたゲーム
- ●時代、場所、参加部隊が限定される
- ●参加者は国別のほか部隊別（歩兵や空挺など）に分かれる
- ●シナリオを設定し、部隊ごとに行動の指示が出される
- ●ゲームの運営と進行のため現場で状況を見ながら演出も行なわれる
- ●エアソフトガンの撃ち合いより、戦闘の再演が重視される
- ●エアソフトガンは、機能や性能より時代設定にあった外見を重視する
- ●モデルガン、無可動実銃も使用可能
- ●会場内やフィールド内でリビング・ヒストリー（生活再演）展示が行なわれる
- ●ゲーム時間はスタートから終了まで5時間程度

［ サバイバルゲーム系 ］

- ●リエナクトメント系のゲームをファジーにした内容で行なわれる
- ●時代を設定し、使用する軍装とエアソフトガンを限定するだけで、リエナクトメント系のように参加に際しての厳密な設定は設けない。
- ●ゲーム方式は通常のサバイバルゲームと同じ進行で行なわれる事が多く、1ゲームの時間も短い

ドレスコードにも細かな系統があるぞ！

軍装コレクター系

モデルガン時代の戦争ごっこ経験者に多く、時代設定に合わせた軍装にこだわる。ゲームでは軍隊ごっこ系ほどではないが、戦闘行動も再演する。ゲームで使用する軍装は実物を中心としていたが、近年はレプリカを併用する人も多くなっている。

軍隊ごっこ系

コレクター系からの派生やサバイバルゲーム系から発展した系統で、部隊を限定してグループ化している。軍装（実物とレプリカは問わない）のほかに基本教練など、部隊行動や戦闘行動などもイベントで再演する。また会場内では、ゲームだけでなくリビング・ヒストリーを行なう事もある。

コスプレ系

軍装コレクター系に近いが、史実、映画、アニメ、ゲームなどに登場するキャラクターの再現を重視している。サバイバルゲーム系と同様に軍装はレプリカが中心になる。

サバイバルゲーム系

ゲーム参加に際して、軍装やエアソフトガンは時代設定に合わせているが、ゲームスタイルはサバイバルゲームになる。軍装は実物アイテムにはこだわらず、レプリカ品をメインに使用する傾向が強い。早い話がマーカーを使わず軍装でチーム分けをするって事。

車輌系

軍装マニアなどと同じ系列と思われがちだが、その関係は世代によって違いがある。また、軍用車輌を所有しないマニアも存在する。

ポストリエナクト
[FUJIWARA × REENACT]
というスタイル。

●Photos & Text:fujiwara

WESTERN ARMS ●ウエスタン アームズ ☎03-3407-5922 http//www.wa-gunnet.co.jp
http//www.wa-gunnet.●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

COLT GOVERNMENT Mk Ⅳ SERIES'70 BLUESTEEL CUSTOM

コルト・ガバメント《ブルースチール・カス》
●全長217㎜
●銃身長：112㎜
●重量：約860g
●装弾数：21＋1発
●価格：7万3,440円
●絶賛発売中!!

グリップに埋め込まれたメダリオンは、ディテールをシャープに再現した真鍮製のスペシャル・パーツ。

コルトの栄光を象徴するMkⅣシリーズ'70を、最高の技術と品質でモデルアップした珠玉の1挺

コルトM1911は、1800年代から一貫して米軍制式拳銃を制作してきたコルトが、近代型のセミオートを開発しながらたどり着いた質実剛健なハンドガンだ。1911年に米軍最初のセミオートとして制式採用され、1923年に米軍の要請を受けてマイナーチェンジが始まり、M1911A1が完成。1984年のM9改編まで、米軍制式採用拳銃として活躍した。第1次、第2次の両世界大戦、朝鮮、ヴェトナム戦争など、20世紀の代表的な戦場で戦ったM1911系セミオートは、アメリカを象徴する存在となり、最もアメリカ人に好まれるハンドガンである事が知られている。

M1911は米軍の採用と同時に、コマーシャル・モデルが制作され、「ガバメント・モデル」の名前で市場への供給が始まっている。コマーシャル・ベースのモデルも、M1911からM1911A1にマイナーチェンジされ、一般市場で大きな成功を収めていた。そんな中、急速に発展する近代的コンバット・ユーティング共に登場したのが、マークⅣシリーズ'70（以下；S70）。従来のコマーシャル・モデルをベースに、より洗練されたシルエットと、新たな刻印が採用されたこのモデルは、近代型ガバメントの基本となり、より多くのガバメント・ファンを生み出した。S70は1970年から1983年まで生産され、その後シリーズ'80、M1991A1などに発展。しかし、オートマチック・

スライド・リリースやサム・セフティやスライド・リリース、グリップ・セフティなどの外装パーツにも、本体に合わせたクオリティの高いフィニッシュが施されている。

PBPV装着例

The Equipments of the U.S. Force

[現用米軍装備カタログ] 第142回

'90年代陸軍特殊部隊装備 AWS Part.2

●解説：松原隆、オールド・ソルジャー ●撮影：山崎 学 ●モデル：和田やすお ●協力ショップ：LAZY CAT（http://lazycat.jp/）／ TRi'S（旧特小工房）（http://tri-ss.com/）／Gamis（http://www2.ocn.ne.jp/~gamis/）／トイソルジャー（http://www.toysoldier.com.hk/）

陸軍特殊部隊のちょっと深イイ話

『マーフィーの法則』

1991年１月17日イラクを空爆した事に始まる砂漠の嵐作戦において、米陸軍第５特殊部隊群第１大隊B中隊のリチャード・バルワンツ上級准尉率いるODA525（Operational Detachments-Alpha：作戦分遣隊アルファ、いわゆるAチーム）の８名は多国籍軍が地上戦を行なう１日前の２月23日、第160特殊作戦航空連隊のブラックホーク・ヘリコプター２機に分乗しイラクに潜入した。任務は第18空挺軍団のために、南北幹線道路の国道７号線を監視し情報を送ると言うものだった。午後８時ヘリコプターの後部を砂丘にぶつかりそうな程の低空飛行で国境を越え、250km敵地に潜入した。そこで待ち受けていたのは、そこら中に響き渡る事前情報で居ないと言われた犬の吠える声だった。しかしヘリコプターが飛び去るとそれも収まり、潜伏地点へ移動した（彼らの荷物の重量は潜伏場所設営道具と水５ガロンを含み80kgを超す）。

次のトラブルは偽装を施した潜伏地点で監視任務を行なっていた時、道路を人が行き来し子供が遊び始めた。時に子供の好奇心は特殊部隊の偵察能力を超える。潜伏地に近づいた幼い子供が監視穴を覗き込んだのである。悲鳴を上げ逃げて行く子供たちに対して、サイレンサー付き銃器を持つ隊員がバルワンツ准尉に指示を求めた。軍上層部から任務遂行の障害になる民間人の排除、つまり殺害の許可は出ていた。しかしキリスト教徒であり同じ年代の子を持つ彼は見逃す事を選択した。彼らは緊急脱出を準備し至急収容を要請したが、その後何も無かったので潜伏場所を変え監視任務を続行する。情報を送り双眼鏡で国道を見張っていると、今度は大人を連れた子供たちに見つかってしまった。幸運は続かなかった。大勢の民間人とイラク軍１個中隊100人以上が集まってきたのである。今度こそ脱出する時だった。必要最低限の装備以外をC-4爆薬で爆破し用水路に逃げ込んだ。その直後イラク兵の凄まじい銃撃に晒された。近接航空支援までは時間がかかるため、M16とM203グレネードランチャーで反撃を開始し敵兵約40人を倒した。支援機と交信するため、SATCOM無線機を準備したがアンテナが無くなっていた。最も必要な時に無線機が使えない。マーフィーの法則である。しかし幸運にも隊員の一人がAN/PRC-90救難用携帯無線機を持っていたのである。前線航空管制官と交信しF-16戦闘機が近接航空支援の爆撃を開始。戦闘が小康状態になり、日が暮れたあとヘリコプターによる収容が行なわれる事なった。正確な位置を教えるためにGPSを取り出したが、壊れていた。またもやマーフィーである。切羽詰まった状態でバルワンツ准尉はAN/PRC-90無線機に位置を知らせるビーコン機能があるのを思い出す。ビーコンのスイッチを入れた数分後にはヘリコプターが現われ、その場を無事脱出する事ができたのである。

これは、湾岸戦争で行なわれた数多いODA任務の内の一つにすぎない。

※注：マーフィーの法則とは
"Everything that can possibly go wrong will go wrong."「うまく行かなくなり得るものは何でも、うまく行かなくなる」という種類の「経験則」で、アメリカ合衆国空軍が起こりとされる。日本でも1980年頃から計算機科学者を中心に知られ、1990年代前半に広く流行した。「最悪の状態を常に想定すべし」という面から、システム開発をはじめ、労働災害予防、危機管理、フェイルセーフの観点からも重要である。また、「高価なもの程よく落ちる」といった一種の諦観を表す面もある。

PBPVアクセサリー

モジュラー・アウター・ロードベアリング・ベスト

パート１で紹介したAWS製PBPV（Personal Ballistic Protective Vest）にはいくつかのアクセサリーが存在する。もちろんほとんどが軍専用なので一般的な販売は無く、現在でも入手困難だ。こちらは防弾ベストPBPVの前後パネルにあるベルクロテープを使ってモジュラー・アウター・ロードベアリング・ベストを貼りつける仕組みとなっている。これは海兵隊のポイントブランク製CQB AVS（Assault Vest System）のAWS版と言える。モジュール式の弾薬ポーチは5.56mmや7.62mm、９mmに対応しており、ショットシェル・ポーチ等専用ポーチも多数存在する。